

令和 6 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300244		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	はなみずき石鳥谷		
所在地	〒028-3102 花巻市石鳥谷町上口一丁目3番地1		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人として「人」「心」「安」を理念に掲げ、また「和と笑顔」をモットーに利用者様一人一人に寄り添いながらケアを行っています。又、外出支援を行い季節を感じて頂き、気分転換を図れる様努めております。地域交流をする機会は少ないですが、地域のお祭り見学や宝寿会全体での地域交流会を開催し楽しめました。今後も地域との繋がりを大切に支援していきたいと思っております。隣接施設の養護老人ホームの看護師と連携を図り、健康管理に努めており医療へスムーズに繋げられる様にしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年12月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧国道4号線沿いの住宅地に立地し、スーパーマーケット等も近くにある。職員で策定した「人」「心」「安心」を理念として、利用者に寄り添うケアを実践している。法人系列の養護老人ホームやデイサービス、特別養護老人ホーム、ショートステイがグループホームと同じ敷地内にあり職員連携がとりやすく、また事業所向かいの特別養護老人ホームは、地域の福祉避難所にもなっている。祭りや法人で行うイベントを通し、地域住民や学生とふれあう機会もあり、広い法人敷地内を散歩して楽しめる環境がある。職員の資格取得に向けたバックアップ体制も充実しているほか、職員研修の受講を奨励し介護の質の向上に努めている。また、職員の休暇も取得しやすく、育児や介護の休暇から復帰しやすい環境も構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人」「心」「安」の理念を共有しながら和やかに笑顔で、その人らしく生活ができる様業務にあたっている。	年度末に理念について話し合い、「人」「心」「安」をキーワードとして「利用者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築く」「利用者の話を傾聴する」「出合いを大切に暮らしやすく」ことなどを再確認している。理念に基づいてケアプランを作成し、利用者が生き生きと生活できるよう日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流の機会は少ないが、行事を行う際には地域の方々にも声をかけて参加して頂いている。	地域の一員として、地域の清掃や草取り等への参加に留まらず、隣接する同一運営法人の施設が行う地域サロンを通じた交流や家族地域交流会を通し地域の様々な世代の方と交流が図られている。法人の広報誌を地域に回覧し、情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合には、お話を伺い力になれる様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、現状報告や施設内見学を行い委員の方々との意見交換を行っている。	運営推進会議は、隣接する「特別養護老人ホームほうじゅの郷」との合同開催とし、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族代表で構成され2カ月に1回開催している。施設の運営状況や事業の進捗状況、ヒヤリハットや事故報告に関する質疑と情報交換等を行っている。	運営推進会議の委員について、利用者代表の参加も検討するなど、同会議が利用者本人の意見を聞く場となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と協力関係を築くことができおり、必要時には相談している。	運営推進会議を通して、市役所職員や地域包括支援センター職員と連携を図り運営の改善にも助言をいただいているほか、事業所の空き状況の情報も共有している。また市主催の地域ケア会議に参加し、地域高齢者の状況も把握している。	

令和 6 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修で学び、常に拘束のないケアに努めている。	法人として3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。所長が出席し会議内容を職員に伝達し、全員で研修内容を確認している。家族の了解を得て、安全確保のため4人が居室でセンサーマット(足・背面)を利用している。安全確保のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学び、虐待のないようケアにあたり職員間でも指摘し合えるよう環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について活用できるよう連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、わかりやすく説明するとともに不明な事がないか確認しながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に皆様から意見や要望を聞きながら、改善が必要な事があれば速やかに対応している。	毎月の通院付き添いの家族の来所時に生活状況の報告と併せ、意見や要望を引き出すように努めている。外出や外泊、墓参り、外食などの希望にも応えている。意見や要望を出しやすいように、毎月お便りを家族宛てに届け、事業所での生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を行ったり、アンケートを行い意見等を聞きながら業務改善を行っている。	職員の提案をもとに、利用者のケアが円滑に行えるよう勤務体制見直しなどの業務改善を進めている。年に1回施設長と職員の個人面談を実施し、法人内での異動の希望などを確認している。また、資格取得のために研修への参加に加え費用助成の制度もある。	

令和 6 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けての費用や勤務の便宜を図って頂けるようになり、より資格取得に向け力を入れる事ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修では、職員全員が参加できる様調整している。参加できなかった際には、資料にて各自自主学习している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加する事で、交流する機会をもっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時に本人や家族から情報を集め心配な事や要望等聞き取り安心して過ごして頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族等から困りごとや心配な事、希望などを聞きとり信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族の心配事や要望を伺い、安心してその方らしく生活できる様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯たたみ等、一緒にできる事は共に行い感謝の気持ちを忘れずにより良い関係を築けるよう努めている。		

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力を頂きながら、共に本人を支えていくことが関係作りに努めている。又、毎月生活状況にて様子について報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策は継続しているが、外出や面会制限をせず家族との関係を大切にできる様支援している。	利用者と近隣の方が遊びに来てくださることがある。家族と外出した機会に外食先や病院で馴染みの人と旧交を温めたり、馴染みの美容室に外出する方もいる。利用者の出身地周辺を、ミニドライブコースに入れるなどして、馴染みの場所が薄れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまくコミュニケーションがとれる様必要時には職員が間に入り一緒に活動をする等楽しめることを見つけられる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にサービス終了してもいつでも相談できる様お伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	細やかな変化や表情・行動などからも一人一人の思いをくみ取り、希望や意向にそえる様に努めている。	日々の関わりの中で表情や言動から思いをくみ取り、新たな気づきや発見を記録に残し、毎日の引き継ぎで情報共有し支援に活かしている。入浴時は職員と1対1の対応となるため会話が弾みやすく、日常生活では話さない利用者の思いを聴く機会にもしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用時の情報を頂き、本人・家族からも聞きとりを行い把握に努め、入居後のお話の中から知れた情報も共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化、一人一人の言動や表情からも、その日の心身状態を見ながら穏やかに一日を過ごして頂けるよう職員間で情報を共有している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、本人・家族から聞き取りした内容をもとに職員会議を開催しケアについて意見を出し合い介護計画を作成している。	入居希望時に自宅等を訪問して生活状況等を把握している。生活歴の聞き取りは居室担当職員が行っている。介護計画の基本を「自分でできる事を継続できるように」とし、入居時の計画を3か月間とし、その後3か月毎に見直して法人理念を活かしたケアプランの策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護実行表や申し送りで気づいたこと等情報を共有し支援の内容についても職員で話し合いを行い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにあった柔軟なサービスが出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や同一法人の職員、運営推進会議のメンバーなどが見守りや声かけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診は家族に対応して頂いている。その際にはバイタル表や健康情報をお伝えし、適切な医療を受けれるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を利用している方がほとんどで、希望があれば事業所の嘱託医を紹介している。体調に変化がある場合には、敷地内にある同一法人運営施設の看護師の助言をもとに対応している。医療機関への通院時は、適切な医療を受けることが出来るようご家族にバイタル表や健康情報を渡している。通院付き添いは原則家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回健康相談日に訪問し、入居者の状態をみてくれる。又、その都度相談し適切なアドバイスを受ける事が出来ている。		

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、施設での様子を伝え変わりなくケアが継続されるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について説明し同意を頂いている。看取りに関しては実施していない事もご家族に理解して頂いている。	入居時に重度化した場合の対応について説明し、同意を得ている。重度化の兆候が表れてきた場合には、主治医の説明と併せて、次の生活の場の確保に向けた話し合いを家族と進めている。食事が口から摂れなくなった場合、浴槽に入れなくなった場合、医療行為が必要になった場合を説明の頃合いとしている。急な体調の変化は救急搬送としている。利用者の内には、特別養護老人ホームの待機者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急マニュアルを各自に配布、又見える場所に貼り対応できるように備えている。看護師に24時間連絡がとれる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人としての避難訓練を年2回行っている。地域の方々にも参加して頂いた。その他にも独自に避難訓練を行っている。	法人として年に2回避難訓練を行っている。非常災害時に備えて職員がLINE登録をするなど、法人全体で連携し災害時に駆けつけられる体制を構築している。食材3日分を備蓄し、防火頭巾、ヘルメットを常備しているほか、スプリンクラーも設置済である。事業所の数メートル先にある、特別養護老人ホームが地域の福祉避難所となっている。	運営推進会議を活用し、地域の防災体制について確認し、更に防災協力隊の組織化に向けた取り組みの検討を進められることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない様声掛けをしている。	個人の思いや考え方に合わせて対応している。利用者は人生の先輩であり、言葉遣い、名前の呼び方等に配慮している。入浴は個別対応とし、排泄の際は必要に応じて付き添い、付き添いの場合でもカーテンを活用しプライバシーを損ねない様に配慮している。同性介助の希望にも応えている。	
----	------	--	-----------------------------------	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を日常生活の中の様子からもよみとり、これから提案をしながら自己決定しやすい様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にしながら、希望も伺い職員も提案をし一緒に考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことができる方には自分で選んで頂き、選ぶ事が難しい方には職員と一緒に選び季節にあった服装が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、盛り付けや下膳、茶碗拭きを行って頂いている。誕生会には好みの物を提供したり、行事食・干し柿づくり、栗ご飯作り等一緒に行っている。	主催と副菜はクックチルドを活用し、ご飯とみそ汁はその都度調理している。近隣からいただいた、栗や林檎、長いも、柿なども食事に活用している。季節に応じた食事を提供し、行事食、誕生日食を楽しんでいただいている。利用者には、麺物、オムライス、味噌おにぎり、芋の子汁などが好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や看護師と連携し、その方に合った食事量や食事形態で提供している。水分量の確保の為、好みに応じて温かい物や冷たい物等お声掛けをしながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には、声掛けを行って頂き支援の必要な方でも、出来る所はお願いし、難しい部分への支援を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護実行表を活用し、それぞれの排泄パターンを把握しできるだけトイレでの排泄を行える様に又、排泄の失敗を減らせる事ができるように支援を行っている。	排泄記録表を活用しながら、トイレで排泄が行えるように支援している。失禁した場合には、早めに誘導してみたり、「大丈夫」と声かけをして安心できるように努めている。4人がセンサーマットを活用しながら、安全な移動や排泄が行えるよう見守りや介助を受けている。乳製品の摂取、水分補給などにより、排便のコントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師とも相談しながら、便秘薬の服用や便秘の予防が出来るように水分補給を行ったり、体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全にも考慮し、職員がいる日中に入浴を行っている。その日の体調や気分もあるので、希望を聞きながら入浴支援をしている。	入浴は午前又は午後の希望の時間とし、1週間に2、3回入浴している。皮膚疾患予防のため足浴の提供やタオルの交換を個々に行っている。入浴を好まない方は、かゆみを訴えたタイミングで入浴を勧めている。入浴は職員と1対1で利用者の思いを聞き取れる時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調にも考慮しながら休息して頂いたり、夜間は安心して休んで頂ける様、少しずつ照明を暗くしたり室温の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し、副作用についても注意し、職員間で情報を共有・様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事や楽しみを見つけて支援している。読書が好きな方には、移動図書を利用して頂いたり、茶碗拭きや洗濯たみを役割と感じて手伝って下さる方もいる。		

令和 6 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を増やし、外気浴や散歩を行っている。地域のお祭りには、沿道にでて見学して頂いた。お花見や新緑ドライブに出かけ外出支援を行っている。	ドライブに出かけ季節の変化を感じ、今年は石鳥谷のお祭りを鑑賞して楽しむことが出来た。ご家族対応で外食や外泊、外出をしたり、近隣を散歩して地域の方と会話している。法人主催のお祭りは、家族のほか地域の方々や学生とも交流出来る機会になった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、家族が行っている。施設の売店や外出した際に好きな物を購入する機会を増やしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用し、自由に電話をしている方もいる。家族に年賀状を出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品を入居者と作成して飾ったり、行事の写真を掲示している。冷暖房を使用し、温度調整をしている。	掃除が行き届いた清潔なホール(食堂兼デイルーム)は冷暖房により適宜空調を調節している。壁には行事の写真や手作りの作品を展示楽しんでいただいている。職員が利用者の隣に座り、話をしながら落ち着いて過ごせるよう支援に努めている。居室よりデイルームで過ごす利用者が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外で食堂と玄関ホールでそれぞれ思い思いに過ごして頂いている。食堂では、入居者同士の関係性にも考慮しながら座席にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた物や寝具や着慣れた衣類を持って来て頂くようお願いをし、思い出の写真等を飾り本人が安心して過ごせる様にしている。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、洗面台、ヘッドライト、時計、温湿度計、小物入れが備え付けられている。室温調整で快適に過ごせる居室となっている。使い慣れた寝具等を持ってきていただく、家族の写真や馴染みの物を持参していただき、安心できる環境を作っている。必要に応じポータブルトイレも設置している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへ居室が分りやすいように表示したり、居室入口には名前の他に写真を貼る等工夫をしている。出来る事は行って頂けるよう安全に考慮して支援している。		